

**二本松城文化観光施設新築基本設計業務委託
プロポーザル審査委員会 審査講評**

1. 審査経過

本施設の整備事業基本設計業務委託業務に係るプロポーザルは、各分野を代表する7名の審査委員による審査委員会が設置され、慎重かつ厳正な審査を行った。

(以下、明朝体：一次審査、ゴシック体：二次審査)

(1) 第1回審査会

日程：平成29年11月21日（火）

場所：福島県男女共生センター（二本松市）

審査は公開で行われ、審査委員の紹介の後審査を開始した。

最初に、事務局より、期日までに提出された9件の提案書について、その内容に失格条項に該当するものは無い旨の報告がなされ、出席委員全員がそれを承認した。

次に受付番号順に、各提案に対し審査委員全員からコメントがなされた。その後、追加意見等の機会は設けられたが、追加意見は無く、投票へと移行した。

投票は順位等をつけずに一人3点を選ぶことで行われた。欠席した委員からは事前に意思表示がなされていたことから、その内容を委員長確認の元事務局が投票用紙に記入し、投票を行った。

(2) 第2回審査会

日程：平成29年12月4日（月）

場所：二本松市民交流センター（二本松市）

前回の審査会にてヒアリングを要請した4者に対して、1者あたり発表10分、質疑15分でヒアリング審査を行った。ヒアリングは公開で行われ、ヒアリング順は当日発表者による抽選を行い決定した。

ヒアリングの後、非公開で、提案者4者についてヒアリング時の質問に対する回答内容を中心に意見交換を行った。その後、審査委員一人1票での無記名投票を行った。その結果2者が同票となり、この2者を候補に再度投票を行い、最優秀者と次点者を決定した。

2. 審査結果

(1) 第一次審査

投票結果は以下の通りであった。

投票結果

受付番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
得票数	0	3	2	2	3	0	5	4	2

この結果を元に協議した結果、特に上位4者以外の応募者にヒアリング要請をすることを望む意見は無く、受付番号2, 5, 7, 8の4者をヒアリング対象者と決定した。

(2) 第二次審査

ヒアリング要請者（以下「提案者」という。）4者へのヒアリングを行った。
ヒアリング順は当日発表者による抽選を行い以下の通りに決定した。

順番	1	2	3	4
受付番号	5	2	7	8

ヒアリング終了後行った第一回投票の結果は以下の通りである。

受付番号	2	5	7	8
得票数	3	1	0	3

決選投票の結果は以下の通りである。

受付番号	2	8
得票数	4	3

上記投票の結果を受けて、以下の結論とすることで全会一致の合意を得た。

最優秀提案者：受付番号 2 (株)青島裕之建築設計室
次点者：受付番号 8 (株)関・空間設計
その他のヒアリング要請者：受付番号 5 (株)ティ・アール建築アトリエ
受付番号 7 (株)はりゅうウッドスタジオ

3. 審査講評

本施設のプロポーザルで求めた提案課題は、次の6題であった。

- (1) 基本設計を取りまとめるプロセスについての提案
- (2) 文化観光施設の配置についての提案
- (3) 文化観光施設の基本構成についての提案
- (4) 歴史資料展示についての提案
- (5) その他関連施設等についての提案
- (6) コスト縮減、環境、意匠、景観形成のあり方についての提案

第一次審査の意見交換の中で見えていたことは、審査のポイントとしては、まず要求されている項目・内容を押さえているか。その上で、良質な独自性のある提案となっているか。そしてそれは具体的な説明となっており実現性が高いと見込めるかであった。

応募いただいた9案は何れも上記の要請に真摯に応えようとするものであったが、一部の課題に対する回答が不十分なもの、良質な独自性という部分で審査委員を納得させることができないものも見受けられ、それが結果に繋がった。

第一次審査で複数選出を行うと、強いアピール点のある案、平均的に良く要点を押さえている案、不十分な点も見られるが、何か含みを感じさせ、それをヒアリングで明らかにしたいといったある種の期待感を持たせる案が選ばれる傾向にある。この場合平均的に良く要点を押さえている案に票が集まる傾向がある。今回の投票結果を見ると一人3点選出ということで受付番号7に5票、受付番号8に4票と半数を超える票が入ったが、満票の案は無く分散していた。

第二次審査のヒアリングでは各委員がプレゼンテーションと技術提案書では理解が不十分と感じた点を中心に質疑がなされた。ヒアリング後の審査会での意見をみると、ここでの質疑に対する回答は充分でなかったものが多かったようである。審査委員が疑問に思った点の多くは十分に検討されていなかったということであろうか？結果から見れば第一次審査の際に一番多くの票を集めた受付番号7は第二次審査では得票を全く得られなかった。上記した傾向で言えばある種の期待感によって選ばれたが、ヒアリングでもそれは満たされなかったということであろうか。逆に第一次審査での投票は多くなかったが、肯定的意見が多かった受付番号2の案がヒアリングを通して説得力を増し、最優秀案として選定されたといえよう。受付番号2の案は各課題に真摯に向き合った他、例えば計画する建物と城跡との関係を「視線の抜け」という観点で捉える独自の提案を示していた点も評価された。

以下に各案に寄せられた意見を列記して講評に代える。

◇最優秀提案者：受付番号2 株式会社 青島裕之建築設計室

- ・配置の点からもこの建物の街中からの見え方が気になるが、全体としては良い案。
- ・魅力的な案。サービス部の動線が少し心配。遺構に対する考えも良い。ワークショップは後付け感がある。
- ・コンパクトであり、上下のつながりが良い。遺構の考え方が良い。1.6間という道幅を表現するのも良い。
- ・基本設計等の計画にスピード感がある。日本の道100選との関連付けを行っているのも良い。テーマ3部分が単純明快でよい。ヴァーチャルリアリティ等の展示法提言も良い。

- ・西側住宅への配慮は1.5m幅の植栽で充分か？
- ・シンボル化しないという意見は納得。
- ・もののありようとしては納得

展示に関してはワークショップで行うのが基本だが、大きい空間で実物展示を重視し、ヴァーチャルリアリティ的なものが外に広がっていくといった説明だが、具体的なものは聞けなかった。

- ・ブリッジのイメージを尋ね、6mスパンでという回答だったが、思い入れは感じられなかった。

省エネについて尋ねたが特別な工夫は見られなかった。また、ワークショップの進め方についての説明も明確ではなかった。

- ・今回の収蔵品に対しては収蔵庫の仕様はオーバースペックではないか。
- ・上段との一体感ということを書いていたので、多目的広場面の壁仕上げについて尋ねたが、省エネ的なことを意識されてか、余りガラス面を大きくはしないとの回答であり、どのようにして一体感を出すのかについての説明は聞けなかった。

◇次点提案者：受付番号 8 株式会社 関・空間設計

- ・建築的に魅力的だが、展示室が小さい。展示室にふらりと立ち寄るとするのは難しい。
 - ・周辺住宅との関係はどうか、環境的面が心配。
 - ・動線が良い。遺構保存の姿勢が良い。
 - ・段々広場が魅力。屋外トイレはこの案だけだが、城址公園内の施設との関係も考慮すると一概によしとはできない。
 - ・段々広場のソフト面での提案が欲しかった。
- ・観光客に興味を持ってもらえそうな展示方法として街と展示の融合という回答があった。展示側から見ると魅力的だが、運営は大変なことになるだろう。
- ・雨戸的デザインで遮光を図りランニングコストや省エネに対処するという考えのようだ。
 - ・外来者中心の施設に見える。もっと地元との折り合いを図るべきではないか。ここでワークショップを見てもらうということによってそれが可能と考えているのだろうか？
 - ・16.2mの道幅の表現ということは当たり障りの無いもので、遺構についてはあまり考えているようには見えない。
 - ・段々広場のソフト事業に対する考えはイメージ的だが、広がりがありえると思う。バリアフリー対策と大屋根とガラス張りの部分が気になる。
 - ・段々広場の中央の壁の仕上げについて尋ねたが、全面ガラスではなく部分的に壁を設けると回答だった。それではこの場のコンセプトにそぐわないのではないか。

◇受付番号 5 : 株式会社 ティ・アール建築アトリエ

- ・石畳ステージは良い。遺構や箕輪線については提案が不足。
 - ・設計チームやスケジュール感が曖昧。
 - ・上段への取り付き方がわからない。横長な建屋も形状はいかがなものか。
 - ・検討プロセスを積極的に発信するのは良い。AR等の展示方法は興味深い。遺構等の提案が見られない。
 - ・他の施設の利用についての提案が欲しかった。
- ・仲見世が暗くならないかという点については吹き抜け等も考慮するという回答であった。
- ・展示については裏方の働きも積極的に見せたいというものであった。
 - ・多目的広場や遺構広場については保全の視点が重視されており学びの視点が見られな

かった。

- ・コスト削減等については建物をコンパクトにするという一般的なものであった。門という考え方は余り良くないと思う。
- ・スケジュールについての説明は具体性に欠けていた。
- ・高齢者への配慮についてはエレベータと屋根付きデッキということで石畳ステージについての説明は無かった。
- ・仕掛け作りや人材育成等の提案があるがそれを誰がどうやるのかの説明は無かった。
- ・温泉や酪農のブランド化を行うとあるがその仕組みについての具体的説明は無い。
- ・研修室が明記されていない点を尋ねたが、研修自体もイベントのひとつと捉えるような考えが見られ、企画展示室を含め他の場所を適宜使うといった回答であった。

◇受付番号7：株式会社 はりゅうウッドスタジオ

- ・広場が狭い。バリアフリーについては話を聞いてみたい。
- ・基本平屋と言うことにはネガティブなまたはポジティブな面があるが、どう捕らえるか。
- スケジュールや展示についての記載が無い。上下のつながりも良くわからない。
- ・大屋根は魅力的でありヒアリングで聞きたい。上下のつながりが不明。樹木を植えることは法面を荒らすことに繋がる。
- ・平行という点は評価。平屋についてはコスト面の不安はあるが期待している。
- ・遺構についての提案が見られない。

- ・平屋にすることでのコストアップについて尋ねたが、プレキャストの使用や施工への介入するような設計でコストダウンを考えるとというものであった。
- ・歴史資料を展示と地元での伝承的なものがあり、これらを作り上げるということでワークショップを考えて行くといった回答であったが抽象化が深まった。
- ・城全体の整備計画を考えたいが遺構広場についての提案は疑問である。
- ・二合田用水の利用ができない場合の代替案を尋ねたが、地中熱利用という答えのみであった。水の利用にはもっと別なものも期待していたのだが、その点についての回答は無かった。
- ・ワークショップ運営のイメージについての説明を求めたが十分なものではなかった。

上記案以外の各案に寄せられた意見

受付番号1

- ・設計の進め方は明確であるが提案の内容が不鮮明。市民参加の勧め方は評価できる。
- ・石垣ステップから門型に登る点は魅力的。設計期間に不安。石垣のイメージを全てにまわすという点はコスト的にどうか。
- ・リピーター対策的なものが無いのでは。
- ・建物が東西に二分されているのはどうか。内容が不十分で検討対象とならない。
- ・石垣ステップによる上下のつながりは良い。他との関連性が見えにくい。西棟の形が機

能性に欠けのでは。

- ・市民参加の点はよいが具体性に欠ける。基本構成空間の具体性が無い。ここで菊人形の展示は難しい。

受付番号 3

- ・設計のスケジュール感が不足。サービス導線が丁寧でよい。西側自由通路のあり方は判断が難しい。上下の関係が薄い。

- ・自由通路は疑問が残る。展示室の位置が人の流れで入るという点では難しい。

- ・展示室が無柱と言うのはいかななものか。上段に関する提案が無いのは残念。実物の太鼓台の展示は不可能。

- ・展示の擬態的表現は評価できる。太陽光パネルの配置やバランスが景観的にどうか気になる。

- ・全体としてはわくわく感がある。土の広場の具体的目的はなにか？

受付番号 4

- ・前庭広場はどうか。展示室は良い。戒石銘はここまで必要か。

- ・全体としては魅力的な提案。施設の占める面積が大きく、駐車場との面積配分は適正か。

- ・戒石銘へのアプローチは必要ない。屋根つき廊下は景観を乱し不要。

- ・設計プロセスは具体的で良い。木質でやさしく好感が持てた。建物面積の大きさは将来拡張等も含んでいて是。

- ・名称も含めて良い。カフェが1, 2階両方にあるのは良い。収蔵庫が狭い。

受付番号 6

- ・使い勝手が良い。夜間等閉じてしまうことで中央部が使用できなくなるのは残念。

- ・サービス部分と表のバランスが良くわかりやすい。上下の関係が不明。断熱についての記載が無いのは気になった。

- ・太鼓台の展示は不可能。道路の拡幅は良いが、親水公園疑問。長屋風イメージは景観にあっている。

- ・B I M等の積極的技術の導入は評価できる。×(すじかいもん)等を取り入れていることは好感もてる。

- ・水利権の問題があり、二合田用水の利用は難しい。

受付番号 9

- ・交流広場は屋内か屋外か良くわからない。

- ・交流広場のあり方や展示室のあり方等について聞いてみたい。

- ・ロードマップが受け付け番号1と同じで気になった。上段への擦り付けや活用が不足。

- ・全体としてまとまっている。上段を意識していて良い。動線はこれでよいか。法面の活用は難しいのでは。

- ・みんなの和室の活用法の提案が欲しかった。

- ・物販の部分と観光案内の部分は近接して欲しい。

展示の観点からの全体への意見

総体的に歴史資料展示についてよく調べている案もあるが、ヴァーチャル技術による展示は短期で陳腐化する恐れがある。展示はいつも新しくしておくことも必要であり、二本松ではこれまで地道な研究調査が積み重ねられてきて、豊富な現物資料があることから実物資料の展示が望ましい。また、展示室並びに収蔵庫の将来における拡張ということも考えておく必要がある。

最後に

今回は組合員の自己研鑽の機会としても位置づけられているということなので、一言付け加えさせていただきます。

今回の課題にもあったことからワークショップによる市民意見の取り込みという案が多く見られました。個人的にはこんな視点もあったか、これができたら素晴らしいなと思うと感心させられるものも多々見られましたが、これは余り高評価の材料とはなりません。その理由はそれを実施する具体的方法が明らかにされていない点にあります。その効果は認めるにしても、限られたスケジュールの中でワークショップを効果的に行うのは大変難しく、それが事業遂行の足かせにもなりかねないという懸念があるのも事実です。これに限らず、新しい提案はその結果のみならずプロセスも含めて審査員が現実味を持って理解・納得できるものでなければ評価には繋がらないと考えます。思い付きに終わらずに、どうすれば実現するかについての道筋も含めて丁寧な説明を心がけて下さるようお伝えして講評を終えることにします。

平成29年12月25日

二本松城文化観光施設新築基本設計業務委託プロポーザル審査委員会

- 委員長：時野谷 茂（会津大学短期大学部長）
- 委員：西谷 大（国立民族博物館副館長）
- 委員：速水 清孝（日本大学工学部教授）
- 委員：浦部 智義（日本大学工学部准教授）
- 委員：根本 豊徳（二本松城跡整備検討委員会委員）
- 委員：鈴木 克裕（二本松市産業部長）
- 委員：丹治 耕一（二本松市建設部長）